

主 題：あなたへの祝福を忘れない3 一世に対する勝利一
聖書箇所：ヨハネの手紙第一 5章1-5節

ここ数週間に亘って、「あなたへの祝福を忘れないように」と、私たちは神からどんな祝福をいただいたのかを学んで来ています。なぜ、自分に与えられた祝福を覚え続けること、忘れないことがそれほど大切なのでしょう？その答えを言うなら、それは「主があなたに望まれている人生を生きるため」です。一人ひとりが神からいただいた祝福を決して忘れてはならないのです。なぜなら、私たちがどのような祝福をいただいたのかを覚えることが私たちの歩みに影響を及ぼすからです。

詩篇の著者は、今私たちが見ていることをこのように教えてくれます。詩篇116：12「主が、ことごとく私に良くしてくださったことについて、私は【主】に何をお返ししようか。」。私たちが何度も見て憶えているみことばです。この詩篇116篇を記したのがだれかなのかはよく分かりません。しかし、少なくともこの箇所を読むときに、恐らく彼は死から助け出されたということが分かります。なぜなら、「死」と言いうことばがこの中に何回か記されているからです。3節「死の綱が私を取り巻き、よみの恐怖が私を襲い、私は苦しみと悲しみの中にあつた。」、15節「主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。」と。死から助け出されて、そして、主に仕えること、その人生を延ばしてくださっているその神の恵みを経験した彼は、その恵みに対してそれにふさわしい返礼をしようとするのです。それにふさわしい感謝を現わそうとするのです。そのことがこの詩篇116篇の中に記されています。

◎詩篇の著者が決心したことは、

1) 神に感謝をしよう : 「私はこの地上にいる間、神を誉め称え続けましょう。私はこの地上にいる間、神に感謝を表わし続けていきましょう。」と言います。そのことは13節と17節に記されています。「13 私は救いの杯をかかげ、【主】の御名を呼び求めよう」「17 私はあなたに感謝のいけにえをささげ、【主】の御名を呼び求めます。」。「救いの杯をかかげ」と書かれています。恐らくこれは、その当時、感謝のいけにえを神にささげるときには、同時に、そのいけにえに対して決められた量のぶどう酒をささげていたからです。それを「注ぎのささげもの」と言い、羊1頭に対して大体1/4ヒン=120ml位のぶどう酒をささげていたのです。そのことをこの著者は言わんとしているのです。ですから、感謝のいけにえをささげる、それは彼自身が神にささげるものです。「こんなにすばらしい祝福をくださった神さま、私はあなたに感謝をささげます。」と。

2) 神への信頼を表わす : 二つ目に、彼は「私はどんなときにもあなたを信頼し続けます」と言います。2節「主は、私に耳を傾けられるので、私は生きるかぎり主を呼び求めよう。」と、つまり、神が私の祈りを聞いてくださったと言っているのです。6節「【主】はわきまえない者を守られる。私がおとしめられたとき、私をお救いになった。」と「守られる」「お救いになった」と言っています。そして、8節では「まことに、あなたは私のたましいを死から、私の目を涙から、私の足をつまずきから、救い出されました。」、「救い出された」とあります。つまり、この著者は、主の前に祈った時に主がそれを聞いてくださったと言ひ、そこから新たな確信を持つのです。

それはどのような確信でしょう？10節をご覧ください。「私は大いに悩んだ」と言ったときも、私は信じた。」とあります。つまり、彼は信仰者としての歩みを通してより強い確信を得ていくのです。

「私は信じた。神は必ず私の祈りを聞いてくださり、そして、みこころを為してくださるのだ。」と、その確信が強められていったのです。ですから、「私はどんなときでもあなたを信頼します」と、それが彼の応答なのです。

3) 神への忠誠を誓う : 9節に「私は、生ける者の地で、【主】の御前を歩き進もう。」と書かれています。これは「主に対して忠実に歩み続ける」ということです。ちょうど、神がその当時はアブラムと呼ばれていましたが、アブラハムに対して言われたこと、創世記17：1「アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。」、「全き者」とあります。「誠実さをもって誠意をもって主に従い続ける」ということです。神はアブラハムに対してそのようであれと言われ、そして、アブラハムは確かにそのように歩んでいきました。この詩篇116篇の著者も、主が祈りを聞いてくださりみわざを成してくださったから、それに対して「主よ、私は心から忠実に従っていきます」と応答するのです。

主の為されたすばらしいみわざに対して彼はどのように返礼すれば良いのか、どのように感謝を表わせば良いのか？「私はあなたを誉め称え続けます。私はどんなときでもあなたを信頼し続けます。そし

て、私はどんなときにもあなたに忠実に従っていきます。」と、このような応答をこの著者は主に対して為すのです。著者の決心は行動となってこのように表れています。

おもしろいことに、預言者ミカも非常に良く似たことを我々に教えてくれます。ミカ書6：6-7「:6 私は何をもって【主】の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。全焼のいけにえ、一歳の子牛をもって御前に進み行くべきだろうか。」、ミカ自身もどのように自分の感謝を表わそうかと考えています。どんなものをどれくらい持っていけばいいのかと…。ですから、家畜のことを言っています。7節「:7 【主】は幾千の雄羊、幾万の油を喜ばれるだろうか。私の犯したそむきの罪のために、私の長子をささげるべきだろうか。私のたましいの罪のために、私に生まれた子をささげるべきだろうか。」、ミカはこのように私の感謝をどのように表わせばいいのかと問うています。そのときに神は8節「:8 主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。【主】は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。」と答えられました。

皆さん、神が私たちに望んでおられることは「何をささげるか」ということよりも「どのように日々を生きていくか」ということです。心から神を思って敬ってこの方に従っていくかどうかです。ミカが教えたことは、心から主に従うこと、それが神が一番喜ばれることであり、それが神が望んでおられることだということです。

私たちが考えておきたいことは、今、詩篇116篇とミカ書を見ましたが、彼らが共通して私たちに教えてくれることは、彼らの感謝というのはただのことばで終わっていないということです。それは行動となって出ていったということです。私たちが考えてみなければいけないことは、私たちは神への感謝を口にします。「神さま、感謝します。ありがとうございます。」と。でも、それには行動が伴っているのかどうか？もっと言えば、行動が伴っていても心が伴っているのかどうか？ということです。今、見て来たように、神が望んでおられるのは、何をするかではなくてどんな心でそれを行うかです。あなたが主に仕えているのは、神を愛して神に感謝をしているからでしょう。でも、神がご覧になっているのは、あなたが何をするかよりもどんな心をもってあなたの感謝を表わしているかです。

この詩篇の著者は、なぜ、自分がこのような選択をしたのか、その一番のカギを私たちに教えてくれています。しかも、少し変わった文章ですが116：1を見てください。「私は主を愛する。【主】は私の声、私の願いを聞いてくださるから。」と、ここには「私は主を愛する。」ということばで始まっています。お気付きになりますか？彼は神を愛するゆえに、このような生き方を選択するのです。だから、神は喜ばれたのです。先ほども話したように、神が望んでいるのは私たちの心です。どんな心をもって私が神に従っていくかです。どんな心をもって日々を生きるかです。神の恵みを覚えたときに、この著者は心から神を愛し感謝した。それが行動となって現われた。それを神はお喜びになったのです。

私たちも彼らと同じように、主がどんな祝福を私にくださったのか、あなたにくださったのか、そのことを覚え続けることが必要です。この恵みを決して忘れてはならない。今、そのように私が強く言ったのは、旧約を見ても新約を見ても、実は、神は同じメッセージを人々に与えているからです。それは「常に神を覚え続ける」ということです。

旧約の時代に、神は「過越の祭り」を毎年祝うようにとイスラエルに命じました。なぜ、そのようなことを神が命じたのか？モーセはこのように言っています。申命記16：1-3「:1 アピブの月を守り、あなたの神、【主】に過越のいけにえをささげなさい。アピブの月に、あなたの神、【主】が、夜のうちに、エジプトからあなたを連れ出されたからである。:2 【主】が御名を住まわせるために選ぶ場所で、羊と牛を過越のいけにえとしてあなたの神、【主】にささげなさい。:3 それといっしょに、パン種を入れたものを食べてはならない。七日間は、それといっしょに種を入れないパン、悩みのパンを食べなければならない。あなたが急いでエジプトの国を出たからである。それは、あなたがエジプトの国から出た日を、あなたの一生の間、覚えているためである。」と。エジプトの国を出たことを記念してこの過越の祭りを祝い続けなさい。そして、今だけでなく一生の間それを覚え続けるために、繰り返し繰り返し祝い続けなさいと言うのです。旧約の時代にはこのようにして過越の祭りを祝い続けました。

新約の時代になるとどうでしょう？聖餐式です。なぜ、私たちが聖餐式を祝うのか？パウロがコリント人への手紙第一で教えています。11：23-26「:23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、:24 感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」:25 夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」と、どちらも主イエス・キリストを覚えるためです。私たちが聖餐の式につくときに、私たちはイエス・キリストの十字架を覚えるのです。私のためにこのような犠牲を払ってくださったと、そうして私たちは常に主が与えてくださった恵みを覚え続けていくと言います。26節はこのように続いています。「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が

来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」と。主が私のためにどんなことをしてくださったのかを覚えるときに、私たちには行動が生まれるのです。正しい動機をもって正しい行動を行っていくからです。

主の十字架を思ったときに「私はこんなにすばらしい主が私に救いをくださった。このすばらしい主を宣べ伝えていきたい。」と、感謝がこうして行動となって現われていくのです。今、私たちが見て来たように、旧約の詩篇の著者がそうだったし、預言者ミカもそのことを私たちに教えてくれました。そして、新約のみことばも同じことを教えるのです。ですから、聖書を通して、みことばが私たちに教えていることは同じことです。どんなときも神があなたに与えてくださった恵みを忘れてはならないということです。あなたがそれを覚え続けるなら、必ず、あなたは神に喜ばれる行動をしていきたい、しかも正しい動機をもって！となります。だから、覚えることが必要だと言うのです。

ダビデがこう言います。詩篇 103 : 2 「わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」と。同じメッセージです。時代が違っても場所が違っても同じことを神は私たちに教え続けています。忘れてはだめだ、神がどんなに大きな祝福をくださったのかを忘れてはいけないと言うのです。

皆さん、聖書を読んで学ぶこと、聖書を正しく理解すること、聖書のみことばを覚えること、そのみことばを瞑想すること、聖書の教理を学び理解すること、そのすべてが大切です。しかし、それらがあなたの生き方に影響を及ぼしていないなら、あなたの生き方を変えていなければ全く意味がないということです。どんなに学んでいても、知識を蓄えていても、その真理が生き方に影響を及ぼしていなければそれは虚しいということです。私たち一人ひとり、イエス・キリストがあのかの十字架で死んでくださり三日後によみがえってくださったその主を覚えるときに、その主を見上げるときに、信仰者であれば間違いなく、心から感謝が湧き上がって来るはず。その湧き上がってくる内側からの感謝が信仰者としてのあるべき歩みを生み出して来ます。だから、主の恵みを覚え続けなければいけないのです。忘れていませんか？皆さん。あなたの信仰者としての歩みは何となく機械的になっていませんか？神の栄光を現わす日々を生きるためにも、神を喜ばせる日々を生きるためにも、神のすばらしさをこの世の人々に現わし続けて生きるためにも、私たちはこの神の恵みを、あなたに与えられた恵みを忘れてはならないのです。

☆私たちに与えられた神の祝福・恵み

1. 救い
 2. 神の力
 3. 勝利
- ⇒ この二つはすでに見て来ました。

今回からは、主が与えてくださった「勝利」について学んでいきます。聖書は私たちクリスチャンたちに対してこのように教えています。ローマ 8 : 35 - 37 「:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。:37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」、信仰者であるあなたは、救いに与ったあなたは、この世に対しても、— このことは今日見ていくヨハネの手紙第一 5 : 1 - 5 に記されていますが —、悪いものに対しても、サタンに対しても、そして、死に対しても罪の力に対しても、あなたはもうすでに勝利を得たのだと言います。なぜ、勝利が可能なのか？それは「勝利の主が私たちとともにいてくださるから」です。確かに、聖書はそう教えています。問題は、あなたが勝利者として生きているかどうかです。先ほどから見ているように、そのような知識をどんなに蓄えていても、そのようにあなたが生きていなければ虚しいということです。

前回、私たちは「神の力が与えられた」ということを学んで来ました。神の力とは「全能の力」です。しかし、全能なる神の力が与えられているとするならば、力強い信仰生活を歩んでいるかどうか、そのことを私たちは考えなければいけません。今から言うことを考えてみてください。全能なる神について学ぶことは大切です。それを否定するわけではありません。でも、私たちが本当に学ぶべきことは、全能なる神に信頼して生きることです。どんなに神に対する知識を持っていても、問題は、それが私の生き方に反映されているかどうか？です。神が力を与えてくださったと言うなら、その力を持って生きているかどうか？です。そのことについて、少し参考になればと思うので私の経験をお話します。

私がグアム島に住んでいた時に、短波放送のアンテナを修理するための技術者がいました。彼らはアンテナを修理するために75mの塔を登ります。住居用のマンションなら25階の高さです。彼らはスルスルと命綱もなく梯子を登っていきます。塔の鉄柱の横にある階段を登っていくのです。頂点まで来ると、技術者は腰に巻いている二本のベルトのうちの片方の金具を外して、そのベルトを目の前にある鉄柱を抱えるように巻いてから再び腰の金具に装着します。そして、手を離してそのベルトに全体重を

かけて手を休めます。想像できますか？75mの高さです！私は仲間の宣教師からその話を何度も聞いて、その度に「すごいねー！安全なのだ！！」と思っていました。ある時、私がそこに登ることになりました。特に登らなくても良かったのですが、私は修理などできませんがその上で番組を作るという全く愚かなことを考えて、一度75mを登ってみようとしたのです。下を見ないで登って行きました。途中から手がパンパンになって来ました。頂上に着いて、そして、私は言われたように自分のベルトを金具から外して鉄柱の背後を回してもう一度ベルトに付けました。ここまでは出来ましたが、からだは震えていました。次はそのベルトに全体重をかけて手を休めること、でも出来ないのです。落ちるかもしれないと思うからです。「大丈夫だ！」とそのことは何回も何回も聞いていましたし、実際に下から彼らの作業を見て来ました。でも、いざ自分が…となると出来ないのです。でも、余りにも手が疲れているので休めるために、そのことばを信じて自分の全体重をそのベルトに掛けました。今、こうして生きているということは、それは上手くいったわけです。手を休めることができたのです。

私たちの信仰はそのようなものではありませんか？神がおっしゃっていることを私たちはしっかり聞いてはいるのです。メモもしているのです。頭にも記憶しているのです。問題は、実際に手を離すことができるかどうかです。多くの人たちは「わかっているけれど、何回も聞いているから知っているけれど、でも、私は手を離すことができない。」と言います。私たちにとって大切なことは、神が言われていることをその通り信じてそのように生きることです。神が全能だということは頭では知っています。でも、あなたが本当に知っているかどうかは、あなたがその神に全き信頼を置いて生きているかどうかです。前回も見たように、神が言われたことを私たちが実行するかどうかです。神ができると言われたことを私たちが「できる！」と信じるかどうかです。エンジニアは言います、「できる」と。でも、そのことを信じるかどうかは私に掛かっているのです。神は「できる」とおっしゃる、それを信じるかどうかはあなたに掛かっているのです。でも、あなたがそれを為すときにあなたは大切なレッスンを学ぶのです。詩篇116篇の著者が教えてくれた通りです。彼も実際の経験を通して学んだのです。確かに、神が言われたことはその通りだ、だから、私はこの方に信頼を置いていこうと…。

皆さん、もしかすると、あなたに欠けているのはそこかもしれないのです。神が言われたことをその通りに受け入れなければ何も学ぶことがありません。でも、それで良しとしています。「自分の信仰は弱いだから…、信仰者として幼いのだから…」と、それでいて私たちは神の力をいただいたと言っているのです。矛盾していると思いませんか？神が私たちに期待しておられることは「神が言われたことを信じてそのように生きること」です。当然、神が私たちに望んでおられることは、私たちの口から「できません、無理です！」ということばが払拭されることです。私たちの神にはできないことがないのです。どんなことでもお出来になるのです。私たちに必要なことは、もうすでに与えられた知識を実生活に活かすことです。そのときに、あなたは確信を持ちます。「確かに、神は言われた通りのお方である」と。このことはあなたがそのように生きなければ学ぶことができません。

ヨハネは言います。「私たちは勝利者だ！」と。今日のテキスト、Iヨハネ5：1-5を見ましょう。「：1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。：2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。：3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。：4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。：5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」、この箇所「勝利に関することば」が3回出て来ます。4 a 節「世に勝つ」、4 b 節「世に打ち勝った勝利」、5 節「世に勝つ者」です。

ヨハネはこのテキストの中で私たちは「勝利者として生きることができる」と、しかも、この世に対する勝利者として生きることができると教えてくれます。それを教える前に、ヨハネは、「勝利者である信仰者とは何を信じている人たちなのか」、また同時に、「信仰者と本当に言えるのかどうか、本当の信仰者の証拠」を挙げていきます。そしてその後、今一度、だから、私たちは「勝利者としてこのように生きていくことができる」と話を展開していきます。

★勝利について

1. 勝利者である信仰者とは何を信じるのか 1 節

その信じる内容が1節に書かれています。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。…」

1) イエスをキリスト(=救世主)であると信じる者

信仰者とは、イエスがキリストであると信じる者であると言います。この正しい真理を知るだけでなく、イエスは私を救うために来られた唯一の救い主であることを信じます。そして、この救いは「神の恵み」であるということもヨハネは私たちに教えてくれます。

・「信じる者は」：「イエスがキリストであると信じる者は」と書かれています。ヨハネはまず初めに、私たち一人ひとりの責任をここに表わしています。この真理をあなたは信じるかどうかです。イエスがキリストであること、このことは私たちが信じようと思えばと真実です。人となって来てくださった神はイエス・キリスト以外にはありません。十字架上で私たちのすべての罪を負って死んでくださった方は他にはいません。唯一の救い主です。ですから、先ず、神は私たちに対してこのヨハネを通して「あなたはこのことを信じるか？」と問うているのです。それは聖書が私たちに問うていることです。信じるかどうかです。一人ひとりの責任です。そして、あなたは「イエス・キリストを信じますか？」と問われた時に「はい、イエス・キリストが私の個人的な救い主であることを信じます。」とそれに応じたのです。

・神によって「生まれた」：メッセージはそこで終わっていません。次に出て来ることばは「神によって生まれたのです。」です。この「生まれた」ということばを直訳するなら「～の父となる」です。イエス・キリストを信じる者には神がその人の父となられるということです。ヨハネが記したヨハネの福音書 1：12には「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」とあります。クリスチャンである私たちは神の子どもとされたのです。私たちの父はだれですか？神でしょう！だから、私たちは「お父さま」と呼んでいるのです。ヨハネはこの手紙で神はイエスがキリストであると信じる者、私の救い主であると信じる者の父になってくださると言うのです。まさに、ヨハネの福音書 1：12で記したことがここにも記されているわけです。

・「だれでも」：しかも、この形容詞が付いています。だれでもこのイエスを信じるなら救いに与ると言うことです。

今、二つの動詞「信じる」と「生まれた」を見ましたが、それぞれの時制が異なります。「信じる」は現在形、「生まれた」は完了形で書かれています。その前にもう一つ、この「生まれた」は受動態、受け身です。ヨハネはイエスを信じるかどうかという一人ひとりの責任がそこにあることを明らかにし、イエスを信じたあなたに対して、実は、あなたが信じたのは神がそのようにしてくださった。「生まれ変わらせてくださった」のは神のみわざであると言います。わずかにこの一行ですが、ヨハネはこのメッセージを伝えているのです。私たち人間一人ひとりに与えられた「イエスを信じるかどうか」という責任、そして、あなたがイエスを信じたなら、それは神があなたを救ってくださったということです。「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。…」(ヨハネ 15：16)、神が私たちを選んでくださった、神が私たちを生まれ変わらせてくださった、神のみわざだということを明らかにするのです。だから、受け身で書かれています。

今、時制のことを話しました。そのことを見ていきますが、最初にも話した通り、ヨハネはここで、救われている者たち、神の子どもとされた者たちはいったい何を信じているのか？と、そのことを教えた後、今度は、あなたが本当に救われているのかどうか？「神の子どもの特徴」を三つ記しています。

2. 神の子どもの特徴：本当に救われた者たちの三つの特徴

1) イエス・キリストを信じ続ける 1節

先ほど話した「信じる」ということばは現在形です。イエスがキリストであると信じ続けていく人たちのことです。そして、神によって「生まれた」という動詞は完了形だと言いました。これは過去のことです。過去に起こったことの結果が今も継続して続いている、それが完了形が示すことです。ですから、あなたは神によって過去に生まれたのです。そして、その結果が今も継続しているということです。どんな結果なのか？それは「主を信じ続ける」という結果です。それがこの1節で言っていることです。ですから、本当に神によって救われた人はイエス・キリストを信じ続ける人たちです。信じ続けることによって救いに与るのではありません。救いに与ったゆえにその人は信じ続けていくのです

2) 神を愛し続ける 1節

1節の後半に「…生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」とあります。「生んでくださった方」、その前に「神によって生まれたのです。」と書かれていますから、これは神のことであることは明らかです。つまり、「神を愛する者はだれでも」となります。ですから、救いに与った人たちは「神を愛し続ける人たち」です。この「愛する」という動詞も現在形です。継続して神を愛し続ける人です。

その続きを見てください。「その方によって生まれた者をも愛します。」とあります。「その方」、神によって生まれた者です。言わんとしていることは明らかです。自分以外のクリスチャンたち、兄弟姉妹

たちのことです。兄弟姉妹を愛し続けるということです。この「愛する」ということばも現在形が使われています。

ヨハネは、本当に神の子どもとなった人たち、救いに与った人たちはイエス・キリストを信じ続けていく人たちだと言いました。でも、実際に途中で信仰を捨てる人がいます。信じ続けることを止める人がいる。彼らはいったいどうなのでしょう？みことばは答えをくれています。Ⅰヨハネ2：19「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。」と。信仰の歩みの途中から「私はイエスを信じない」と言う人は、元々救いに与っていなかったと聖書は教えています。なぜなら、この箇所が教えるように、神によって救われた人たちはこの救いを決して捨てることはないからです。

救いに与った人たちは愛し続ける者たちであると言いました。神を愛し続けるし、兄弟姉妹を愛し続ける者たちだと。驚くことは、神に対しても兄弟に対しても使われているこの「愛する」ということばは「アガパオ」です。「神の愛」を表わすことばです。つまり、本当に救われた人は、神の愛をもって神を愛し、神の愛をもって兄弟姉妹を愛するというのです。驚くべきことをヨハネは教えてくれるのです。神を愛する愛、アガパオの愛をもって神を愛すること、これは努力するならできそうな気がしますが、アガパオの愛をもって兄弟姉妹を分け隔てなく愛することはどうでしょうか？

こちらの方が難しいと思いませんか？というのは、これまで多くの人たちがこのことを実践しようとして来たからです。実践しようとして、何度も何度もしてもできなかつた。だから、「私は兄弟姉妹を人間的な愛でならどうにか愛することができるかもしれないけれど、神の愛をもって愛することは自分には不可能だ。」となります。でも、それはあなたが勝手に思っていることであって、みことばが何と教えているか？すでに、1節を見て来ました。「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」と。「愛します。」と断定しています。そうなると言っています。そうなれば良いという希望ではありません。可能であると断定するのです。なぜ、それが可能なのか？ヨハネは私たちに教えます。今から三つのことを見ますから、いっしょに見てください。

◎神の愛をもって神を愛し、兄弟姉妹を愛することが可能である理由

(1) 神があなたを愛してくださっているから

ヨハネの福音書16：27でこのように教えています。「それはあなたがたがわたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じたので、」と、「わたしを」はイエスご自身です。「あなたがた」は弟子たちです。「わたしを神から出て来た者と信じた」、イエスにまつわるその真実を彼らは信じたのです。その結果、「父ご自身があなたがたを愛しておられるからです。」とあります。神はすべての人を愛してくださっています。ですから、求める者の罪を赦してくださった。でも皆さん、イエス・キリストを信じたあなたがたを神は特別に愛してくださっているのです。あなたの弱さも愚かさも十分に知った上で、あなたがみこころを行い続けるために必要な助けを神は与え続けてくださるのです。あなたを愛してくださっているから…。だから、神が私たちに命じていること、教えてくれているそのみこころを私たちは実践することができるのです。

(2) 神の愛があなたに与えられているから

ヨハネ17：26を見てください。「そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」「わたしは」はイエスのこと、「あなた」は父なる神のことです。イエスは人々に「あなたの御名を知らせました。…これからも知らせます。」と言いましたが、それは「父なる神がわたし（イエス）を愛してくださったその愛が彼らの中にあるからだ」ということです。つまり、私たちクリスチャンは、父なる神がイエスを愛してくださったその愛をいただいた者たちだと教えます。「あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、」、しかも、「またわたしが彼らの中にいるためです。」と、イエスが私たちの中にいてくださると言います。

だから、ヨハネが言ったように、この神によって救いに与った私たちは、この神の愛をもって神を愛することができ、そして、兄弟姉妹を愛することができる。それは、神の愛が私たちのうちに与えられているからだということです。Ⅰヨハネ4：7にもこのように書かれています。「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」と。愛がどこから出ているのか？神から出ていると言います。神の愛で愛することができるのは神の愛が私たちのうちに与えられているから、その愛をいただいているからその愛をもって愛することができるというのです。ですから、私たちが神の愛をもって神を愛し兄弟姉妹を愛することができるの

は、私たちが神の愛をいただいているからです。神が私たちを特別に愛してくださっているから、この神の愛によって私たちには可能なのだと教えるのです。

(3) あなたがイエスに似た者に変えられていくから

イエスがこの地上におられたときに、イエスが歩まれたようにあなたも私も歩いていくのです。イエスのことを思い出してください。イエスは確かに神の愛をもって父なる神を愛しておられました。ヨハネ 14 : 31 「しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行っていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」、「わたしが」、イエスが父を愛しているとイエスが言っておられます。私たちがイエスに似た者に変えられていくということは、私たちがそのように愛していくことができるということです。

また、イエスが地上におられたとき救いに与っていた者たちを愛しておられました。ヨハネ 13 : 1 には「さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。」と、これはまさに、イエスが十字架に架かるその間際のことです。イエスは地上にいる最後になって、ご自分の奴隷たちを、イエスを信じる者たちを愛されたということです。私たちがそのような人へと変えられていくのです。

皆さん、私たちは神の子どもとされたのです。イエスは神の子として生きていらっしゃった。神の子どもとされた私たちは、神の子であったイエス・キリストがそうであったように、神の愛をもって父なる神を愛し、そして、同じ神の子どもである兄弟姉妹たちを愛する人へと生まれ変わったのです。だから、このように人生を生きることが可能となったのです。

もし、私たちのこの集まりが、この教会が今私たちが教えられたように神の愛をもって神を愛し、神の愛をもって兄弟姉妹を愛しているなら、どんなにすばらしい証をこの世に対して示すことになるでしょう？少し想像してみてください。教会にいる兄弟姉妹たちが神の愛をもって互いに愛し合っている、そこには人に対する悪口もない、人に対する憎しみも怒りもない、神の愛をもって互いに愛し合っているのです。私たちが気付かなければいけないことは、このような願いを神は私たちに対して持っておられるということです。なぜ、「あなたに」と言われたのか？神が喜ばれる教会を築いていくために必要なのは、先ず、あなた自身が変わっていくことだからです。私たちがだれかを指差して「あの人が変われば…」とは言えないのです。神が望んでいるのはあなたが成長しあなたが変えられていくことです。あなたが変えられていくことによって、あなたの周りを変えられていくのです。「一人くらい良いではないか…」と言いますか？思い出してください。アカンの罪はイスラエルに敗北をもたらしたのです。どんな罪であったとしても神はそれをお喜びにはならないのです。

今日、私たちがこのみことばから教えられることは何か？神は私たちを新しく生まれ変わらせてくださった。勝利者として生まれ変わらせてくださった。「勝利者」とはいったい何なのか？何を信じる者たちなのか？そして、その救いに与った者たちとはどんな者たちなのかを見て来ました。神を愛し、兄弟姉妹たちを愛する者たちであると。このようなみわざが神によって為されたのです。

そして、思い出していただきたいのは、この一方的な恵みをもって与えてくださった神の救い、この救いは「死んだ救い」ではありません。「生きた救い」です。なぜなら、この救いは死んでいた私たちを生き返らせ、私たちを変え続けていく力をもったものだからです。なぜなら、この救いを私たちにくださった方は、十字架で死によみがえり、今も生きておられる主が与えてくださる救いからです。

あなたは救いをいただいておりますか？その救いの恵みを感謝しておりますか？どのようにその感謝を表わそうかと、そのことを考えて生きていますか？もしそうなら、先ずあなたがすることは、罪から離れることです。そして、主からの祝福を思い出してそれに感謝することです。そして、このすばらしい神を愛する愛があなたにあって成長することを願いながら、与えられたこの日を生きていくことです。そのようにして生きるのです。そのように生きて神に感謝を表わすだけでなく、私たちの周りの人たちに「確かに救い主は来られた」、「その方によって救いが与えられる」、「その救いは私にも及んだ」、「こうして私を変えてくださっている」と、そのことを明らかにして主の証を為し続けることです。

私たちがこのように生きていくことが必要です。主の恵みをいただきながら、そのように歩いていきましょう。